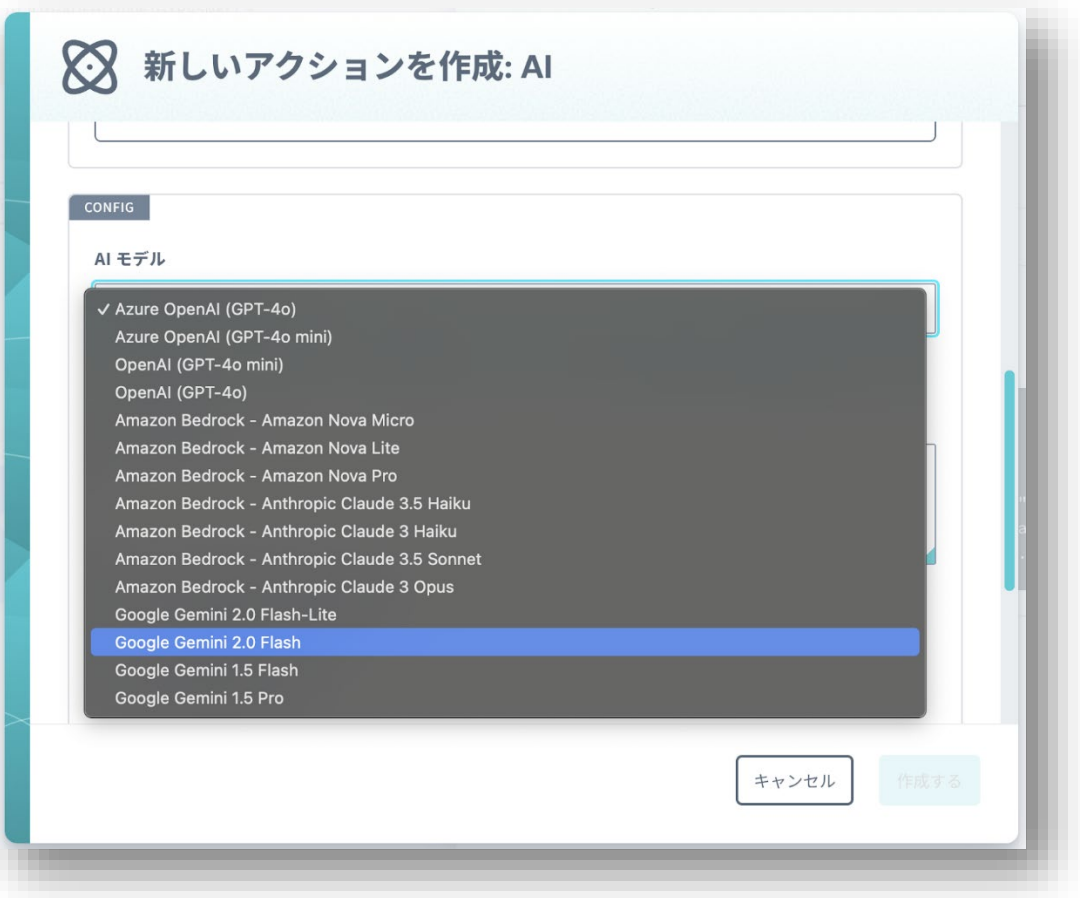
2025年 5月 8日
株式会社ソラコム

「SORACOM Flux」が、「Gemini 2.0 Flash」に対応

高性能・マルチモーダルな生成AIモデルを、
従来の約1/10のコストでIoTアプリケーションに統合可能に

株式会社ソラコム（本社：東京都港区、代表取締役社長　玉川憲）は、IoTアプリケーションをローコードで開発できる「SORACOM Flux（ソラコム フラックス）」において、利用できる生成AIモデルとして、Googleが2024年12月に発表した基盤モデル「Gemini 2.0 Flash」、「Gemini 2.0 Flash-Lite」に対応したことをお知らせします。



SORACOM Fluxは、IoTシステムの自動化を目的としたIoTアプリケーションビルダーです。センサーやカメラなどのIoTデータをインプットに、通知システムや生成AIモデルによる分析を組み合わせ、現場の業務や設備管理を効率化するアプリケーションを、ソフトウェア開発の専門知識がなくてもブラウザ上で構築できることが特長です。現場主導のデジタル化を支援する仕組みとして、製造業や物流業、小売などさまざまな業界で活用が進んでいます。

このたび対応したGemini 2.0 Flash は、Googleが開発した生成 AI「Gemini 2.0」シリーズの軽量モデルで、テキストと画像といった複数の情報を扱う「マルチモーダル」に対応しています。IoTで取り扱うセンサーデータやカメラ画像などの多様な情報処理に適しており、軽量ながらも従来モデル（Gemini 1.5 Pro）を上回る性能を発揮します。さらに、Gemini 2.0 Flash-Liteは、機能を絞り込むことで、テキスト生成や画像内の物体検出といった処理において、より高いコスト効率を実現したモデルです。

SORACOM Fluxでは、各種API連携や生成AIを用いたアクションを利用するために「クレジット」を消費します。消費するクレジットが、Gemini 2.0 Flashでは1リクエスト当たり4クレジット、Gemini 2.0 Flash-Liteでは1リクエスト当たり3クレジットとなり、これまで提供していたGemini 1.5 Pro（45クレジット）と比較して、約1/10のコストで利用可能です。

例えば、センサー値の異常検知、カメラ画像からの滞在人数のカウントや物体検知、ヘルメット着用判定といったケースは、生成AIの汎用モデルによる処理が有用です。SORACOM FluxとGemini 2.0 Flash、Flash-Liteをご利用いただくことで、生成AIを統合し分析や推論を高頻度でおこなうIoTアプリケーションの開発を短期間かつ低コストで構築できます。

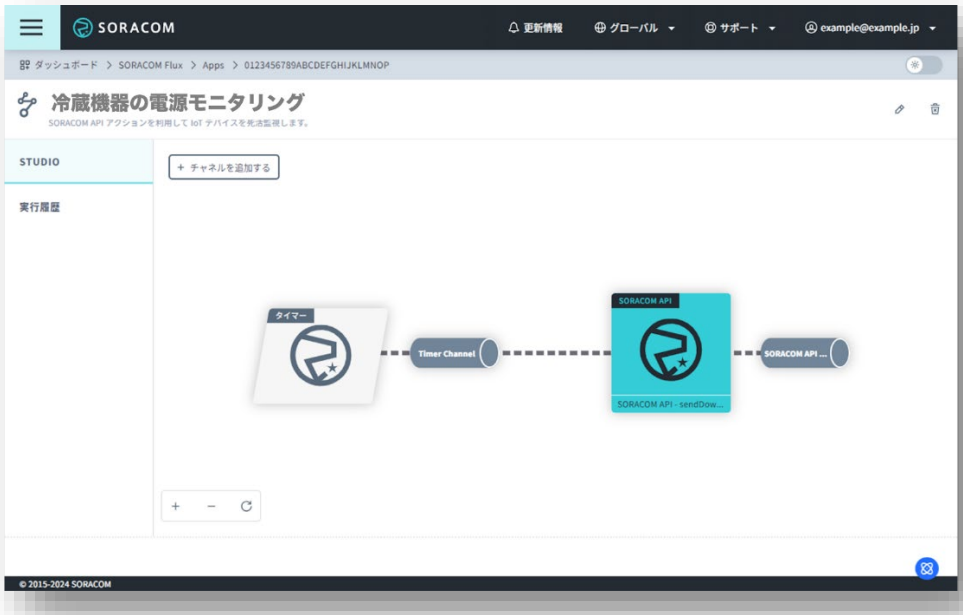
SORACOM Fluxは、お客さまのユースケースからのフィードバックや、最新の生成AIサービス動向を踏まえて、引き続きアップデートしていきます。

Gemini は Google LLC の登録商標です。

ローコードIoTアプリケーションビルダー SORACOM Flux について

SORACOM Fluxは、デバイスから送信されたセンサーデータやカメラから送信された画像に対して、ルールを適用し、複数のデータソースや生成AIを組み合わせて分析/判断し、その結果をIoTデバイスの制御に反映させるIoTアプリケーションをブラウザ上の操作で構築できます。

<IoTアプリケーション構築時の画面イメージ>





＜画面上から、生成AIモデルを選択し、自然言語で指示を入力＞



サービスの詳細、料金プラン、具体的な利用方法についてはウェブサイトをご覧下さい。
ウェブサイト
https://soracom.jp/services/flux/

ユーザーガイド
https://users.soracom.io/ja-jp/docs/flux/

ソラコムについて

IoTプラットフォームSORACOMは、世界180以上の国と地域でつながるIoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業DXから、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいています。

ソラコムコーポレートサイト https://soracom.com

本ニュースに関するお問い合わせ

株式会社ソラコム 広報
担当：田渕
pr@soracom.jp